

■ 修士論文要旨

中国における外資系製造企業の動向に関する考察

—外資系電子企業の撤退に焦点をあてて—

A Study on the Trend of Foreign Manufacturers in China
—With a Focus on Withdrawal of Foreign Electronics Company—

神奈川大学大学院 経営学研究科
国際経営専攻 博士前期課程

徐 躍 光

YUEGUANG, Xu

■キーワード

製造業、電子企業、「中国脱出」、資金還流、「チャイナ・プラス・ワン」

要旨

中国は「改革・開放」以来、経済成長は一気に加速した。生産と販売両方が考えられ、先進国の企業が相次いで中国に進出した。食品、衣料品などを含め「Made in China」が世界中に溢れている今、中国は「世界の工場」と呼ばれるようになった。

しかし、近年、中国の土地、環境保護、自然資源、資本などのコストが大幅に増えている一方で、新しい「中国労働契約法」では有給休暇を与えることを雇用者に義務化することや、解雇の条件を厳しくするなどの条例を通じて労働者に対する保護が強化された。このほか、中国政府は農業を促進するため、中国の製造企業の重要な労働力である農民たちに対し、農村に残り、農作業をするように呼びかけている。それゆえ、中国の製造企業は労働力不足に陥っている。

今の時代には、同種の商品を作れる企業が増えているため、各業界において競争が激しくなっ

ている。各業界では、市場を自社でほぼ独占した状態にすることはない。このように、各業界の競争が激しくなり、自社の利益を守るために命を削るコスト競争が激しくなっている。今の時代では、どんな企業でも「コスト競争力」を強化する必要があるのである。

従って、中国製造企業は、前述の社会環境の変化から以前と比べ優勢が減退していると言える。2013年3月16日に中国商務部が発表した統計データによると、2012年の対中国直接投資額は前年よりマイナス3.7%落ちたが、それは2009年に世界金融危機が起きてから初めてのマイナスと見られる。外資系製造業の直接投資のみに限れば前年比マイナス6.2%となり、さらに大きな落差が見える。中国製造業の競争優位性は次第になくなって

いる。中国経済の減速懸念が高まっていく中で外国企業が中国以外の生産拠点や投資先をASEAN（東南アジア諸国連合）で模索する動きが広がっている。経済成長に伴うASEANの消費市場拡大に期

待する動きも活発である。また米国を例として、国内雇用創出などのため、国内に生産回帰する動きもある。リスク分散を目指し、中国と別の国の組み合わせた「チャイナ・プラス・ワン」が流行したが、中国以外をASEANで探ろうという方向に向かっている。

本稿では近年議論が盛んな「中国脱出」論に着目し、外資系電子企業の撤退に焦点をあてて、中国における外資系製造企業について現状を把握し、外資系製造企業の中国からの撤退の要因とその影響を分析したうえで、外資系製造企業の変動に向けた方策を検討し、中国における外資系製造企業がコストダウンの実現、リスクの回避などのため、今後企業の生産、市場での競争力をより高めていくため、また、中国側としては「世界の工場」という地位を維持するために、どうすべきかを検討し、今後の発展方向を提言していくことを目的とする。

第1章では、中国製造業の発展と現状を分析し、中国製造業に関する基本情報を整理した。

第2章では、外資系製造企業の中国への進出に関する研究を行った。外資系製造企業が中国へ進出する理由を挙げ、今の中国には、市場競争力の優位性をばむいくつかの現象が現れている。具体的には、(1)外資優遇の撤廃、(2)環境汚染への不満、(3)知的財産権侵害のリスク、(4)政治リスク、(5)労働力の優位性の喪失、(6)中国労働契約法、の6点が指摘できた。

今まで、外国企業の投資がもっとも集中しているのは電子産業である。しかし、人件費の暴騰、環境汚染問題、知的財産権侵害リスクと政治リスクなどのほか、人口という大きな強みを持っている中国には、多くの優秀な企業と製品が登場している。中国における外資系電子企業がジレンマに陥っている。

第3章では、近年議論が盛んな「中国脱出」論に着目し、外資系電子企業の撤退に焦点をあてて、説明した。本節では、中国依存の脱却を図る外資企業が採用するASEAN進出と自国への生産回帰の2点に着目し、その現状について分析を行った。

最後の章では、中国の「世界の工場」という地位は東南アジアに脅かされているが、その地位交替がすぐに実現するわけではないと思われる。この理由として3点挙げた。まずは、中国市場は他国と比べ物にならないほど巨大である。次に、中国の労働力コストは拡大しているが、中国の労働力の質や労働力としての人的資本価値の価値も明らかに向上している。さらに、中国経済には完成され、成長している産業構造、産業体型と能力が備わっている。

今後企業の生産、市場での競争力をより高めていくため、また、中国側自分の「世界の工場」という地位を維持するために、どうすべきかを検討しなければならない。このため、外資系企業についてと中国について2点から今後の発展方向を提言していった。外資系企業については、中国の消費者向けの商品を開発、販売することを狙いながら、現地生産は発展の遅れた内陸に拠点を置くという戦略方式は一番いいと思う。「チャイナ・プラス・アルファ」は現段階でグローバルマーケティングの情勢に最も合理的なオプションなのであると思われる。中国については、中国政府による経済改革が必要なのは言うまでもない。投資環境を整備したり、知的財産権の保護を強化したりといった取り組みが今後いつそう政府に求められることになる。

参考文献

1. 岡嶋 裕史 (2007) 「Phone——衝撃のビジネスモデル」 光文社新書
2. 経済産業省製造産業局「模倣品・海賊版対策の相談業務に関する年次報告」(2013)
3. 坂田 東一, 川口 淳一郎 (2011) 「科学技術立国日本を取り戻すには：教育の観点から」 岩波書店
4. 櫻井 敬三 (2012) 「日中インフラ産業中小企業の技術獲得戦略取り組み姿勢」『第27回年次学術大会講演要約集』研究・技術計画学会
5. ジェトロ「ASEAN自由貿易協定 (AFTA)

- の物品貿易に関する協定 (ATIGA)」(2012.1)
6. 新山 康夫 (2013) 「米国で再び注目を浴びる製造業」世界平和研究所
7. 西島 章次 (2012) 「中国との経済関係におけるブラジルのジレンマ」『ラテンアメリカ時報
8. 台湾通信News 「アップルが来年Mac製品の一部製造業務を中国から米へ移転、鴻海精密 (HONHAI) も現地に拠点開設か」(2012.12.7)
9. 高山 武士 (2013) 『「世界の工場」のアジアで、予想外に輸出が低迷している』ニッセイ基礎研究所
10. 中村 久人 (2008) 「日本製造企業の国内回帰現象と国際競争力に関する研究」東洋大学経営学部経営論集 (71)
11. 貿易・投資円滑化ビジネス協議会 「ASEANにおける問題点と要望」2013年版
12. 陸 敬波 (2007) 「労働合同法：HR応用指南」中国社会科学出版社

外国語文献

1. 董达善・俞浩 (2008.9) 『中国制造业现状及发展研究』[期刊论文] 上海经济研究 [期刊论文]
2. 李牧群・李萌 (2010.10) 「中国制造业竞争优势现状及比较」中国三星经济研究
3. 李士梅 (2004) 「中国制造业发展面临的主要问题及对策研究」中央财经大学学报
4. 王小明 (2003.7) 「21 世纪中国制造业的发展研究・财经问题研究」重庆社会科学院
5. 郑新立 (2007.1) 「经济全球化条件下中国制造业的发展趋势・中国制造业信息化」『中国制造业信息化』
6. 中国国家税務総局ホームページ
<http://www.chinatax.gov.cn/>